
風呂

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風呂

【Nコード】

N1590R

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

気が付けば『姉と俺』シリーズも13作目。無防備な背中つて恐くない？

(前書き)

う、後ろ……。

頭を洗っている時、後ろに誰かいるような気配を感じる事はないだろうか。目を閉じ、背後を扉の方に向けたまま頭を洗う。初めは何も思わなかったのに、突然背後に寒気に似たおぞましい気配を感じる。『気のせい。気のせい』と思いながら、頭の泡を洗い流し後ろを振り向くと誰もいない。こんな経験ありませんか？

俺は只今入浴中、そして洗髪中

『ほらきた。背後に感じる何かの気配。しかし、俺が気にするから、感じる気がするんだ』

俺は普通に頭を洗い、よく洗い流した後、後ろを勢いよい振り返った……。

『ほら、誰も……！』『うわあああ……！』

俺は思わず後ろに転倒し、大きな叫び声をあげた。

「どうした！！何かあったか！」

父さんが落ち着いた口調で聞いてくる。

「お、お、お、お前がいるからだろうが！しかも、そんなお面付けやがって！」

俺の後ろには……、厳ついお面をつけた父が見下ろしていたのだった。

「どうしたの!? 何かあった!?!」

と母が飛び込んできたと思うと、俺の股間を見て、

「立派になったわねえ」

と言い残して去っていった。

父は父で、

「そんなにビックリしたか? まだまだ子供だな。ハッハッハッ!」

と呑気に笑っていた。その後、俺は父さんと久しぶりに風呂へ入った。背中を洗ってもらったりして。

『俺の家族は変なヤツばかりだな……。……っというか、母さんに裸見られた! 父さんのバカア!!--』

(後書き)

こいつら、あつての俺達か……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1590r/>

風呂

2011年10月8日01時20分発行